

令和5年2月24日
関東運輸局**『港湾の現場で活躍する女性と運輸局職員との懇談会』を開催**

～「映え」はないが、仕事の意味ややりがいを大事にしたい人には向いた仕事～

関東運輸局では、昨年7月に国土交通省港湾局が策定・発表した「港湾労働者不足対策アクションプラン」のひとつである「港の仕事を知ってもらう」に関する取り組みとして、『港湾の現場で活躍する女性と運輸局職員との懇談会』を開催しましたので、その概要をお知らせします。

関東運輸局としては初の開催となった本懇談会では、「日本の産業に欠かせない貨物を扱っていることから仕事にやりがいを感じ、荷役が終わり無事出港できた際には大きな達成感を得ることができる」といった港湾荷役の魅力ややりがい、「普段からのコミュニケーションが大事で、体力は学校の体育の授業についていける位で充分」といった業務に臨むうえでの思い、「どこの職場でも大変なことはあって、大変な箇所が違うだけ。別に港湾だから特殊ということもない」「認知度は低いですが、待遇は他の業界に劣るものではなく事業の安定性もあり、知ってさえもらえれば学生の就職活動の選択肢に入る」といったご意見をいただきました。

今後も、就職先としての港湾の認知度向上をはじめ、アクションプランに沿って必要な取り組みを進めてまいります。

<開催概要> ※参加者と内容の詳細は別紙をご参照下さい。

- (1) 開催日： 令和5年2月8日（水）
- (2) 場所： 関東運輸局 会議室
- (3) 参加者： 横浜港及び川崎港においてコンテナやばら積み貨物の荷役の現場でフォアマンとして活躍する女性2名に、関東運輸局の女性職員1名を加えた計3名
※フォアマン：荷役の計画立案や本船との調整、作業員の手配、現場の監督等を行う。
- (4) 内容： 参加者より、「港湾の現場に就職したきっかけ」「港湾の仕事の魅力ややりがい」等を語っていただき、意見交換を行った後、懇談会に参加した感想やコメントをいただきました。

**【問い合わせ先】** 関東運輸局 海事振興部 港運課 山下、山岸

電話：045-211-7215 / FAX：045-201-8788

【同時配布先】 神奈川県政記者クラブ、横浜海事記者クラブ、物流専門紙

◆参加者**<港湾の現場で活躍する女性>**

○三井埠頭(株) 業務部 港運課 青木 ゆり 様

※入社9年目。営業や企画業務を経て、令和4年より川崎港で主に石炭の本船荷役のフォアマン業務に従事し、現在10か月目。

○日本通運(株) 京浜港ターミナル支店 第2チーム 澤井 孝那 様

※入社3年目。当初より横浜港でコンテナの本船荷役のフォアマン業務に従事。

<運輸局職員>

○国土交通省 関東運輸局 海事振興部 港運課 係員 奥田 玲華

<司会進行>

○国土交通省 関東運輸局 海事振興部 港運課長 山下 明

◆懇談会でいただいた主なご意見等**<港湾の職場に就職したきっかけ、理由>**

○海の近くで生まれ育ったこと、父がコンテナターミナルで働いていたことから、子供の頃から港に憧れがあった。

○港湾業界は労働組合の活動が活発という話を聞き、不景気でも雇用は維持されそうだと考えた。

○商船高専に通って船の運航の免許を取るための勉強をしていたため、船に関わる仕事がしたいと思った。

○入社する前に先輩社員と懇談する機会があり、"海運に携わるなら、若いうちに現場にたくさん出ておいた方が業務を理解しやすい"と言われたことが、現場に行きたいと希望を出すきっかけになった。

<港湾の仕事の魅力ややりがい、就職して良かったこと>

○時代によって生活インフラが大きく変わっても、日本が島国である以上は、海上輸送に関連する仕事はなくなる実業の一種。現場仕事になると、どうしても汚れたり、暑い・寒い環境で体力を消耗する面はあるが、日本の電力や製造業に欠かせない原料や燃料を扱っていると考えると、仕事のやりがいを感じる。

○様々なことを考えながらフォアマン業務を行うので、本船の荷役中は気が張る。トラブルが発生することもあるが、解決して無事出港できた際には大きな達成感を得る事が出来る。

○コンテナ荷役のプラン作成はパズルのような面白さがあり、自分のやり方によっては荷役がもっとスムーズに行えたりするのも面白いところ。

○学生の頃は港湾にはちょっと怖い人たちというイメージがあったが、入ってみたらそんなことは全くなくて、むしろ昔ながらの良い面で「ファミリーのような感覚」があり、誰かがミスしてもみんなでカバーする雰囲気があって、居心地が良い。

<苦労したこと、工夫していること>

○現場に出るので、基礎的な体力はやはり求められる。学校の体育の授業についていける位で充分だと思うが、そういった体の丈夫さみたいなところは覚悟した方が良い。

○土壇場でのプラン変更やトラブル対応で、作業員さんに負担をかけることがあるので、普段からコミュニケーションを大事にするよう心がけている。

○こちらがモゴモゴと話していると作業員の方はイライラしてしまうと思うので、ハキハキ伝えるようにしている。作業員の方には少し言葉遣いが乱暴な方もいるが、別に怒ってる訳ではないので、元々そういう喋り方なんだなと思って、こちらもそのままあっけらかんと接していれば、なんてことなく意思疎通できる。

<感想、コメント>

○こういった懇談会という場がこれまで一度もなかったもので、とても貴重な機会だと思った。港湾の現場で働く女性というと、今まで自分の会社の社員しか知らなかったもので、こういう大変な思いはしているけど、こういうところは楽しいよっていうのを話せる、伝えられるというのはいいなと思った。

○港湾の仕事はイメージがあまり良くない部分はあると思うが、実際に入ってみると、他の業界でも大変な中で昼夜問わず女性もたくさん働いていることを考えれば、別に港湾だから特殊ということもないと思った。そういう意味では、他の業界の勤務体制等の良い部分を、もっと参考にしても良いかもしれない。

○自分はあまり気にしていなかったが、やはり現場の女性の方は少ないんだなということを、改めて実感した。でもできないことではないし、実際、重たい石を持ち上げるわけではないので、現場で働いてみたいと思う女性がいたら、ある程度の我慢強さは必要かもしれないが、どこの職場でも大変なことはあって、大変な箇所が違うだけだと思うので、そんなに高いハードルを感じることなくフォアマンや現場を一つの就職先として見ていただければありがたい。

○今後さらに働きやすい職場にしていくためには、職場の雰囲気が大切。自分も精神面で支えられる部分が多かった。現場はコミュニケーションが大事で、トラブル後の労いを意識的にやっていたただだけでも、働きやすい職場になるんじゃないかと思う。

○「港湾荷役作業員」という呼び方を、もっと若者が興味を示すようなカッコいい名前に変えても良いのではないか。

○自分はたまたま家族が港湾で働いていたので知っていたが、一般の方々はこういう職種があることすら知らないと思う。今の女性は、学校でも男性と同じように教育を受けてきているし、女性

だからこれはできないという意識はあまりないと思うので、港湾業界について言えば、給与水準等の待遇は他の業界に劣るものではないし、事業の安定性もあって、会社にもよるが勤続年数が比較的長いのはそれだけ女性も働きやすい職場だからと思っているので、こういう職種があるということを知ってもらえさえすれば、高校生や大学生の就職活動の選択肢にきっと入ってくるはずで、みんなが知らないだけだよ、と思う。

○港湾荷役という仕事は決して派手なものではないし、いわゆる「映え」のような要素はほぼ無いかもしれないが、日本の海上貿易の窓口というか水際を司る仕事なので、仕事の意味ややりがいを大事にしたいという人には向いていると思う。